

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● ^{のりめん} 新たな法面緑化工法について試験施工を行いました

林道や作業道の法面保護として、様々なタイプの緑化資材が使用されています。しかし、自然環境の保全が求められる中で、外来草本を含む資材は安易に使用しにくくなっています。

こうした中、土壌藻類を用いた新たな法面緑化工法である、BSC工法が開発されています。

このたび、同工法を開発した（株）日健総本社と、たかやま林業・建設業協同組合の協力を得て、BSC工法の試験施工を高山市久々野地内で10月29日（金）に行いました。

BSC工法は、法面に土壌藻類資材を散布してBSC（バイオロジカル・ソイルクラスト）を人為的に早期に形成させることで、表面浸食を抑え、草や木を侵入させ、植生遷移をスタートさせる工法です。施工方法や使用する資機材は一般的な種子吹付工と同等で、種子が土壌藻類に置き換えられています。使用する土壌藻類は世界中の土壌に存在し、BSCの形成により周囲から飛来する種子が活着して緑化を進めていくため、自然環境への影響を回避できます。また、法面を整形しなくても施工が可能です。

試験施工には11人の会員が参加し、採水、資材を調製し、R1～R2年度に開設した林業専用道の各種法面（北向き切土、南向き切土、南向き盛土）計約200m²に施工を行いました。冬に向かいつつある時期ではありますが、降雪までの間にBSCが形成されることが見込まれています。

今後、試験施工箇所については継続的に確認して効果について検証するとともに、結果については適宜、会員の皆様にも共有します。

※ BSC 工法 について

… <https://bsc-method.com/>

▼裏面へ続く



使用した資材と土壌藻類



資材の調製状況



施工の様子



施工の様子

●岐阜県立森林文化アカデミー及びドイツ・ロッテンブルク林業大学と連携して広葉樹将来木共同試験に取り組みました

(ロッテンブルク林業大学との連携事業)

岐阜県立森林文化アカデミーはドイツ・ロッテンブルク林業大学と連携し「広葉樹将来木共同試験」に取り組んでおり、当コンソーシアムもこれに協力しています。

将来木施業は、従来の間伐技術とは異なり、将来的に価値を持たせたい優良木候補（将来木）を選定し、その周りの木を除去していく技術です。

今回、ドイツで取り入れられている将来木施業の方法等が日本の広葉樹林で適用可能か調査研究することを目的に、飛騨市の協力を得て飛騨市神岡町内の市有林で実証試験に取り組みました。

今回設定した試験地は、天然更新による二次林で、約35年生のミズナラやクリなどが生育しています。

調査の開始にあたり、6月から試験地までの作業歩道を開設し、9月、10月に調査プロット(約0.1ha)の設定・測量、プロット内毎木調査及び不用木の巻枯らし間伐を行いました。

調査プロットは2か所設定し、一つは将来木に影響を及ぼす樹木を除去するプロット、もう一つは対象区として手を加えないプロットとしました。

元々は、ロッテンブルク林業大学の学生と共同で調査する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で来日ができなかったため、岐阜県立森林文化アカデミー横井特任教授を中心に、飛騨市、飛騨市森林組合などが協力して毎木調査など行いました。

今後は、今回設定したプロット内の経過観察や樹高等の調査を行うほか、同様のプロットをもう一セット設定していく予定です。引き続きコンソーシアムとしてもこれに協力していきます。

また、広葉樹林におけるOWL(アウル)の活用方法の検証を行う予定です。



コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com